

私はこの度の自民党総裁選挙において、河野太郎候補を支持することと致します。

一昨日、河野太郎氏と会談した際、河野氏から、挙党体制を確立するにあたり、水月会の力を是非とも貸してほしいとの申し出がありました。これを重く受け止めたいと思います。

自民党を変えてほしい、政治を変えてほしい。この国民の多くの声に応えるために、党改革、党風刷新を志す勢力は、二分することなく一致すべきとの思いに基づき、この決断に至りました。

河野候補を支援するのは、この改革の志が一致したこと、政治理念と国家に対する危機感と使命感を共有したことが理由であります。

共有した政治理念とは何か。

「政治は国民と共に笑い、国民と共に泣くものでなくてはならない。」

「自民党は国民政党であり、永田町の国会議員のものではなく、国民のものである。」

「保守主義とは、度量の広い、中庸な、温かいものである。」

『保守』とはイデオロギーではなく、皇室を尊び、祖先を敬い、地域と地域の人々、伝統を大切にし、異なる立場の主張にも謙虚に耳を傾け、己が誤っていればそれを正していく寛容さこそがその本質である。」

これは私の長年の思いです。

河野氏とは日本国に対する危機感と使命感を共有致しました。

「自民党を変え、政治を変える」「日本の危機に全力で」とのキャッチフレーズは、彼のその思いを体現したものだと考えます。

政権復帰以来、自民党は一貫して国民の支持を得、政権を運営してきました。しかし、野党の能力と気魄の欠如によって助けられてきたこともあり、徐々に国民の思いとの間に断絶や乖離が広がってきたと私は思っております。

「他に代わる政党がないから」という消極的な支持を脱し、水月会の理念である「国民の納得と共感」を得る政治を確立し、政治を国民の手に取り戻すことこそが、いま最も必要なのです。

新型コロナウイルス禍において問われているのは、日本の医療体制の根本からの見直しです。

急激な人口減少は、コロナ禍によってさらにその速度を増しています。

気候変動対策は、社会と経済の在り方そのものを問う課題です。

安全保障環境は極めて危機的な状況にあり、防衛法制・運用・装備を根本から改めねばなりません。

これらをはじめとする課題解決にあたり、我々に残された時間はもう多くはありません。

私は過去二回、この危機感を水月会の同志の皆様と共有して、総裁選に挑みました。しかし、そこにおいて示された党员の意思も十分に反映されることはなかったように思います。

いま最も求められるのは、政治を、自民党を国民の手に取り戻し、勇気と真心を持って真実を語り、納得と共感を得るまで誠実に説明責任を果たし、先送りしてきた諸課題を解決することです。

これを実現することを最優先と考え、今回の結論に至りました。

候補者それぞれ、得手・不得手の分野があることは当然のことです。

人口が全国最少で、過疎化と人口減少が進み、農林水産業と中小企業が基幹産業である鳥取県を選挙区としている私は、地方創生をライフワークのひとつとし、全国の数多くの市町村を廻ってきました。自民党を支えているのは、地方において暮らしている、草の根的な方々です。この声をこの総裁選と新体制に反映させたいと強く願っています。

今回、若手議員の皆さんが勇気を持って立ち上がり、派閥の意向のみに従わない姿勢を明確に示しておられることは本当に素晴らしいことです。

我々は誰に忠誠を誓うべきなのか。それは国民に対し、そして自分たちに国会議員の立場を与えてくださった主権者である有権者に対してのみ忠誠を誓うべきものだとは私は信じます。

国民の思いに最も近いのは期数の若い議員の皆さんなのです。

総裁選においては、それぞれの議員がその思いのもと、勇気をもって行動されることを切に願います。

新体制においては、正しいことを正しいと言い、間違っていることは間違っていると云える清新な党風を確立し、党员すべての英知を結集できる挙党体制を打ち立てなければなりません。

同志の皆さん、これからも国民の願いに応える、新しい自民党を創っていきましょう。

以上、私の思いを申し述べました。何卒ご理解のほど、よろしく願い申し上げます。